

# はあとほっとステーションしまだ

2004.5

Vol.18

## 機能の絞り込み(特化)ということ



島田病院

多くの寝たきり高齢者が生まれました。介護保険が導入され、介護の専門施設が公的に認知され、高齢者の環境整備が進みました。

介護だけでなく医療でも、専門分化が始まっています。病気やケガの経過は、一般的に、発生直後で濃い対処が必要な時期(急性期)、その後のリハビリテーションを中心としたケアが重点となる時期(回復期)、さらには、地域でご本人らしい生活ができるよう援助するといった社会的な対応が主体となる時期(維持期)に分けられます。それぞれの時期には、最適のケアがあり、最適の環境があります。つまり、時期によって特性の異なる施設で治療を行うこととなります。ただし、各施設間の連携は不可欠の条件です。

島田病院の一般病床は整形外科疾患の急性期に対処する機能を持った施設であり、糖尿病や神経難病に対しても総合的に疾患との対応を学習する施設でもあります。同時に、急性期直後の方にリハビリテーションを行う「亜急性期」に対応する人や設備を持った施設です。「亜急性期」は先ほどの「回復期」の少し前の時期と位置づけられ、急性期後期または回復期前期と考えると理解しやすいと思います。この「亜急性期」の病床を利用して、入院患者さまが円滑に在宅や次のステップに移行していただけるよう医療相談員を中心としたスタッフが働きます。一方、島田病院では、心筋梗塞などの循環器疾患、脳卒中などの中枢神経疾患、大腸ガンや胃潰瘍といった消化器疾患の急性期の治療はできません。

島田病院は大食堂のように「何でもできる」施設を目指しているわけではありません。整形外科やリハビリテーションなど「これならできる」という得意分野を持った施設となるよう努力しています。私たちができることとできないことを分かりやすくお伝えしていきたいと思っています。ヘルスケアの中で専門店を目指し、機能を絞り込んで活動していることをご理解いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

島田病院 院長 島田 永和

みなさん、「百貨店の大食堂」に思い出はありませんか？ケチャップ味のチキンライスに小さな日の丸が刺してある「お子様ランチ」は、オマケのおもちゃまで付いていて私の憧れメニューでした。飲み物は緑色のクリームソーダ、極めつけはデザートプリンアラモード。大人たちもたくさんのメニューから、それぞれ自分の好みの料理を選びます。



しかし、各百貨店の顔とも言える大食堂も時代の流れとともに変わります。平成14年に阪急の大食堂が姿を消し、懐石料理からお寿司、飲茶の店など11店が並ぶレストラン街に生まれ変わりました。それに続いて高島屋大阪店の大食堂も本年4月4日の営業を最後に閉店しました。約1,000席の規模を誇り、【東洋一の大食堂】と呼ばれたこともありましたが、5月下旬頃、台湾点心の専門店と洋食レストランが営業を始めることになっています。もう残るのは天満橋の松坂屋大阪店だけですが、ここは百貨店ごと閉店することが決まっています。

経営学者は「日本の百貨店は家族連れをターゲットにすることが特徴で、初期からその目標が明確化されていた。そのコンセプトの具現化が大食堂だ。しかし、最近の百貨店の消費者層は主婦とかOLとか、家族から個人の客へ変わってきた。それが食堂の運営にも大きく影響している」と分析しています。個人の顧客の好みが変わり、一か所に浅く広く商品を準備した形態では満足を与えることができなくなったのです。大食堂は何でもあって便利ですが、「専門店の味」は期待できません。今はそれぞれの料理にこだわりを持った店が評判を呼びにぎわう時代となりました。

この傾向は、医療の世界と重なり合って映ります。百貨店の大食堂は、何でも、誰でも、いつでも診てくれる「一般病院」です。専門店は、特色を持った「専門病院」になります。島田病院はこうした特定の分野に特化し集中して良質のサービスを提供する「専門病院」を目指しています。

ヘルスケア制度として専門分化が進められたのは、平成12年の介護保険の導入でしょう。それまで障害を持った高齢者は、自宅での介護ができないと老人病院に入院となりました。病院では「治療」が中心です。必要な「リハビリテーション」や「介護」に取り組む施設は少なく、長期の療養に相応しい環境でもありませんでした。

### < 島田病院 理念 >

人間愛と確かな技術に基づき職員全員による患者さま本位のヘルスケアサービスを通し地域の積極的な健康づくりに関与する病院を目指します

### < 使 命 >

良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

### < 職員憲章 >

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを心(Heart)と技術(Hands)で支援します

# インフォメーション

## 診療部

### 脳梗塞について

先日、長嶋茂雄さんが脳梗塞で入院されたことが巷の話題となりました。正確には心源性脳塞栓症という脳梗塞の1種であり、心臓での不整脈などにより塞栓という血の塊が脳の動脈まで運ばれて血管内で詰まり、脳に血液が流れなくなり、脳の1部が機能しなくなる病態です。

その原因としては、心臓に何かしらのストレスがかかり、不整脈を引き起こして血液が心臓内で固まりやすくなる状態が考えられています。過度の緊張やストレス、生活の乱れ、喫煙などがその引き金になると考えられています。人間の体はその人固有の限界値を超えるような環境にさらされると、このよ

うに体の内部環境がこわれやすくなるようです。

例えば、糖尿病に関しても体重が過度に増加することが、その発症誘因の1つであると考えられています。体重が過度に増加するとどうも体に不都合なことが生じることが多いようです。どの程度の負荷が各個人にとって必要量であり、体にとって限界量であるかは現状の医学では予測困難なことが多くありますが、“ほどほどに”生活していくことが五体満足に長生きしていく秘訣であることを改めて実感させられたニュースでした。もし生活習慣に対して何かご心配なことがあれば、内科医師(担当:植田)まで気軽にご相談ください。

(内科医長 植田秀樹)

### はびきの市民大学開催(平成16年度 前期講座)

平成16年5月8日(土)

テーマ 『生活習慣病を知ろう～糖尿病～』 島田病院 内科 植田秀樹 申込み受付は終了しました。

## 医事課

### 市民健診のおしらせ

4月より平成16年年度の市健診がスタートしています。

実施期間 羽曳野市 4月1日～12月31日  
藤井寺市 4月1日～10月31日

対象 羽曳野市、藤井寺市にお住まいの満40歳以上の方  
(職場等で健診をうける機会がない方のみ)

費用 羽曳野市 1,000円(非課税)  
藤井寺市 無料

健診内容 身体測定・血圧・心電図・血液検査・尿検査

詳しくは、島田病院受付までお問い合わせください。

5月15日(土)  
島田病院  
看護の日

## 看護の心を みんなの心に

日時: 5月15日 土曜日 10:00～15:00

場所: 島田病院 1階

高齢化社会を支えていくためには看護の心、助け合いの心を一人一人が分かち合う事が大切です。こうした心が育つきっかけになるようにナイチンゲールの誕生日である5月12日が「看護の日」とし制定されました。

私たちもこの日にちなんで毎年多彩なイベントを実施し、看護のPRをするとともに自分自身を振り返る大切な日にしています。



皆様の来院をお待ちしています。

### 健康チェック

身長・体重・体脂肪 検尿・血圧測定・骨量測定(先着10名様)

### イベント

- ・アロマテラピー(先着60名様)
- ・アメつかみ
- ・バルーンアート
- ・リトルナース(対象:小学3年生未満 先着10名)  
ナースキャップを付けて病棟を回ります。  
撮った写真をカレンダーにしてプレゼント。おみやげ有り。  
カレンダーは5月末まで院内で展示(後日郵送) 事前予約が必要です。

### 展示コーナー

- ・リトルナース写真展(対象:小学6年生未満 女子)  
ナースキャップを付けて撮った写真をカレンダーにしてプレゼント。  
カレンダーは5月末まで院内で展示(後日郵送) 事前予約が必要です。
- ・ぬりえ展(対象:小学6年生まで)  
看護婦さんの絵に好きな色をぬってお持ちください。  
粗品をプレゼントします。ぬりえは、5月末まで院内で展示。  
ぬりえのご返却はできませんのでご了承ください。  
事前予約が必要です。
- ・介護用品展示

### 相談コーナー

- ・お薬相談
- ・お食事相談
- ・介護相談
- ・医療・健診なんでも相談
- ・看護進学相談

看護師体験してみませんか!

(対象:中学生～高校生まで)

事前予約が必要です

### おみやげ花の苗プレゼント

(先着100名様)

この他にもすてきなプレゼントをご用意しています。

看護の日に関するお問い合わせは、  
島田病院 看護部 高松・西田・藤元まで  
(月～金:9:00～17:00)

## ~ ちょっとトクする話 ~

生活習慣病シリーズ 7

# 高脂血症について



## 高脂血症とは?

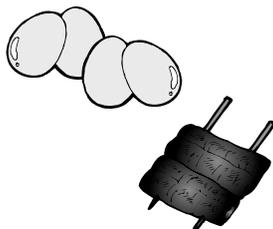
その名前の通り血液にある脂質成分(主にコレステロール・中性脂肪)が、異常に増加した状態です。自覚症状はほとんどなく、偶然に血液検査で発見される事が多いです。その為何の症状もないままに、動脈硬化を悪化させ、やがて心筋梗塞や脳梗塞といった怖い病気を引き起こします。原因としては、不規則な食生活、甘いもの・油ものとりすぎ、食物繊維の不足、飲酒、運動不足、喫煙、肥満などがあげられます。

## 血液中に増えすぎてしまった脂質成分を どのようにして減らしていけば良いのでしょうか?

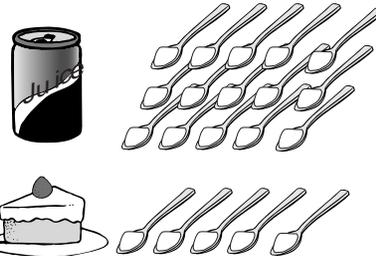
### 食事のポイント

- ① 食事はバランスよく、規則正しくとりましょう。
- ② カロリーのとりすぎには注意しましょう。  
・前号の「肥満について」で述べた3つのポイントを参考にしてください。
- ③ コレステロール値を上げる食品をとりすぎないようにしましょう。  
・1日の食品からのコレステロール摂取量の目安は300mg以下です。

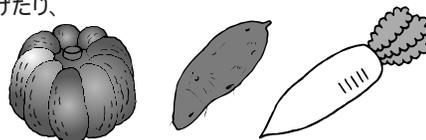
(例) 卵	1個	234mg
すじこ	30g	153mg
鶏レバー	60g	222mg
豚レバー	60g	150mg
かずのこ	100g	370mg
あんきも	60g	336mg
うなぎ(蒲焼き)	1串	144mg



- ④ 糖分、特に甘い物はとりすぎないようにしましょう。  
・1日摂取量の目安は砂糖として40~50g以下にとどめましょう  
(例)缶ジュース(炭酸入りジュース350ml)で44gの砂糖が入っています。  
小さじ15杯(44g)分です。  
(例)ケーキ1個で15gの砂糖が入っています。  
小さじ5杯(15g)分です。



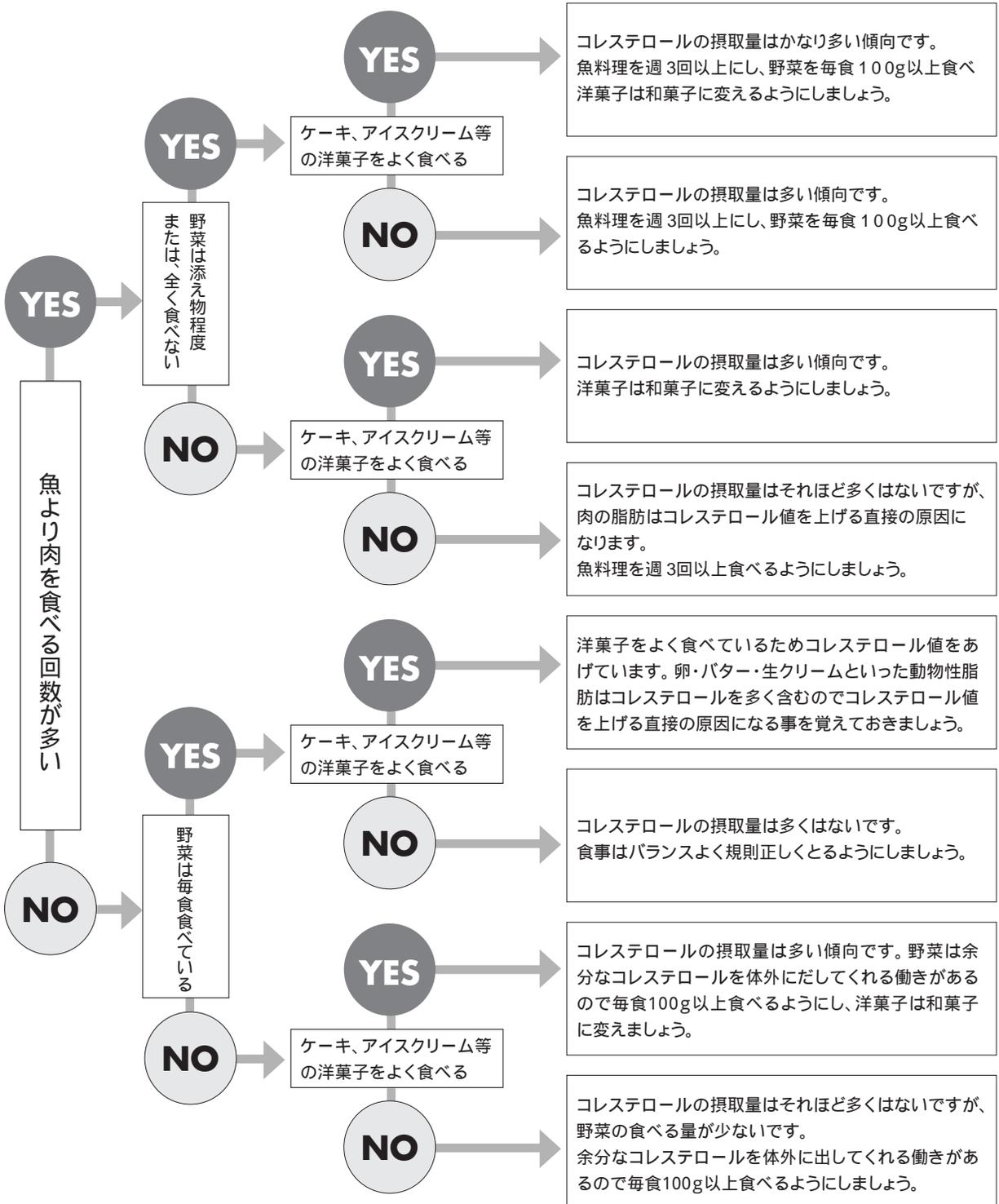
- ⑤ 食物繊維は積極的にとりましょう。  
・食物繊維は便秘を解消するだけでなく、コレステロールの吸収を妨げたり、肥満も予防してくれます。  
豆類・芋類・ごぼう・かぼちゃ・大根・人参・海藻類など



高脂血症と診断された方は、そうでない方と比べコレステロールを体内に吸収しやすい体質をしています。食事でのポイントのように摂取量の目安を守るようにしましょう。

# 食生活をチェックしましょう!

コレステロールのとりすぎや、野菜不足になっていませんか?



島田病院では、このニュース・レターが病院と患者様を結ぶコミュニケーションツールとなるよう願っています。ぜひ、みなさまからのご意見、ご感想を館内各所に設置している「きくぞう君(ご意見箱)」までお寄せください。